

はじめに

静岡市統計書によれば、二〇一二年末、静岡には八三三一人（男性三六五一人、女性四六八〇人）の外国人が住んでいるそうです。これは静岡市の人口の一・一六パーセントにあたります。これだけ大勢いるのですから、広報や各種の表示でも多言語併記がふえていますし、街ですれ違う機会も多くなっているのではないでしょうか。

私たちは、同じ静岡に住み、静岡で暮らしているこの人たちのことを、もっと知る必要があります。それも、単なる「在住外国人」一般としてではなく、名前と顔を持ったひとりとして。差別やトラブルの多くは、一人一人の個人を知らないことにより、エスニックグループとしてのイメージだけ

が独り歩きし、偏見や恐怖の生まれる例が多いからです。

そう考えていたところへ、あざれあ地域共同事業に選定されましたので、静岡在住外国人への聞き取りを実施して、本書をまとめることができました。静岡市の国別登録者数では、アジア出身者が全体の七〇％以上を占めているということなので、聞き取りはアジア人女性に絞って行いました。

慣れない外国での暮らしを、女性の立場からどう乗り越えてきたか、自国と日本で女性の地位や社会状況がどう違うか、あるいは違うないか、など、あらかじめいくつか質問を考えていきましたが、読んでわかるとおり、みなさん自由に語っています。

素人の短時間インタビューですので、深く掘り下げるような分析は望むべくもありません。

ません。日本語がまだうまく使えない方も多く、こちらでも相手の国の言葉が使えないので、もどかしいやり取りになったことも少なくありませんでした。でも、みなさん笑顔で応じてくれました。

聞き取りの相手は、私たちが一番身近に触れる機会がある、ということ、多くはエスニックレストランで働いている方たちになりました。そのため、いくらか偏りがあるかもしれません。

もっと職種を広げれば、たとえば、きつと大勢いるはずの出稼ぎ外国人女性（いわゆる「じやばゆきさん」などへの聞き取りができれば、ずいぶんと違った人生、違った静岡が見えてきたはず。しかし残念ながらそれはあまりにもハードルが高く、私たちの手には負えませんでした。（でも、

これは是非やるべきことだと思えます。誰か手を挙げてくれないでしょうか。）

ならば逆に、読者を広げるチャンスにしよう、と考えました。女性問題、在住外国人問題について興味のある人だけでなく、食べ歩きやショッピングを楽しむ人にも手に取ってもらえるようにする。そうすれば、めずらしい料理を食べながら、在住外国人のことや、アジアとの交流について考える機会を提供できるでしょう。

それで、ガイドブックとしても使えるように、その国の人たちが働いているエスニックレストランや商店リストを付け加えました。マップ片手に静岡のアジアめぐりをしてみてください。そして、すでに「国際都市」になっている静岡を感じてください。

（佐久間）